

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586022101	科目番号 / Subject code	05860221
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本を知り、世界を知る (前近代の日本と世界)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	佐久間 正		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	佐久間 正		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	佐久間 正		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育G棟38		
対象学生(クラス等) / Object Student	教育・経済・薬・水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	sakuma@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	多文化社会学部 1号館		
担当教員TEL / Tel	095-819-2920		
担当教員オフィスアワー / Office hours	各授業終了後に個別に対応する。		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	本科目は全学モジュール「世界を知り、日本を知る」の に属する科目である。ユーラシア大陸の東辺、太平洋の西辺に位置する島嶼国家日本は、徳川以前の前近代においても、列島以外の地域と様々な交流があり、そうした中で本土国家「日本」と琉球王国が形成された。そのような文化交流の様態と、本土国家「日本」と琉球王国の特質を、政治、経済、文化等の側面から考える。		
授業到達目標 / Goal	近代と前近代という歴史認識の二分法の理解を踏まえ、列島に住む人々が二つの国家体験(古代から徳川に至る本土国家と琉球王国)を有したこと、そして二つの国家の違いについて理解している。さらに前近代の東アジアの政治社会状況及び文化状況について基本的知識を有している。		
授業方法(学習指導法) / Method	講義を中心とする。教科書は用いず、授業内容を記した資料に基づき講義を進める。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	近代・前近代、本土国家、琉球王国		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いず、授業内容を記した資料を配付する。参考文献等は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	定期試験80%、授業への参加20%		
受講要件(履修条件) / Requirements	高校の日本史及び世界史の教養・知識を身に付けていることを受講の前提とする。それらを選択しなかった者は、少なくともそれらの教科書を読んでおくこと。		
学生へのメッセージ / Message for students	世界の中で日本を考えてみよう。私たちにとってごく当たり前のことだと思っていたことが、実はそうではなかったことに気づくことは大切です。異文化理解 異文化交流はそこから始まるのです。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	はじめに 現代世界への視角		
第2回	歴史認識をめぐって 時代区分 近代と前近代 身分と階級 社会と国家		
第3回	列島の自然環境、文化環境 モンスーン気候と水稻農耕 中華帝国の周縁		
第4回	本土国家形成の曙光 中国の史書から 邪馬台国 倭の五王		
第5回	古代国家(本土国家の原型)の形成 聖徳太子の政治 大化の改新 天武持統朝		

第6回	古代国家の特質 律令と格式 『古事記』と『日本書紀』
第7回	仏教、神道、儒教 仏教の受容 神道（神祇信仰）の成立 儒教の受容
第8回	本土国家の展開 天皇の存続と王権の推移
第9回	琉球王国の成立 王国以前 三山の統一 王国の隆盛
第10回	琉球王国（近世琉球）の特質 王権と身分
第11回	西洋との邂逅 キリスト教の伝来と南蛮文化 都市長崎の成立と推移
第12回	徳川国家の特質（1） 兵農分離制 幕藩制と徳川政治体制
第13回	徳川国家の特質（2） 鎖国 禁教制 蘭学 洋学
第14回	徳川国家の特質（3） 石高制と徳川社会
第15回	徳川国家から明治国家（日本の近代国家）へ 徳川国家の解体 天皇制国家の形成
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586022501	科目番号 / Subject code	05860225
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本を知り、世界を知る (近現代のアジアと日本)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	COMPEL RADOMIR		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	COMPEL RADOMIR		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	COMPEL RADOMIR		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育G棟38		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	cmlrad@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員TEL/Tel	2944		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜日12時~12時50分(不在の場合もありますので、予めeメールでアポを取って下さい)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	沖縄という地域の特殊性を手がかりに、日本をはじめ東アジアの近現代史をひもとく。アジアにおける国民国家の形成と変容への理解を深め、現代社会の仕組みについて洞察力を鍛える。		
授業到達目標/Goal	<p>沖縄と日本の近現代史について、アジアの国際関係に位置づけながら概略を説明できるようになる。(批判的思考力)</p> <p>沖縄と日本の諸問題を、政治経済に関する基盤的な知識を踏まえ、社会の仕組みを広く深く考えるようになる。(基盤的知識)</p> <p>社会の多様性について、「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことができるようになる。(多様性の意義)</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	クラスの規模に応じて、講義形式とグループワーク形式の授業を組み合わせる。グループワークの内容については全体的な流れを見て構成する。LACSを経由して主要文献および先行研究を紹介し、ミニプレゼン、ミニレポート及び期末レポートを提出してもらう。一部は英語の資料も活用する(3%程度)。(相互啓発思考力、自己表現力、日本語及び英語力)		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	沖縄、日本近現代史、政治学、多様性		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>教科書は使用しない。講義内容に関連した資料をLACSで配付する。</p> <p>参考書となる文献は次の通り：</p> <p>奥田博子『沖縄の記憶 &lt;支配&gt;と&lt;抵抗&gt;の歴史』(慶應義塾大学出版会、2012年)、</p> <p>屋嘉比呷『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす』(世織書房、2009年)、</p> <p>社会評論社シリーズ『沖縄・問いをたてる』(全6巻、社会評論社、2008年)、</p> <p>山本英治『沖縄と日本国家』(東京大学出版会、2004年)。</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>沖縄および日本の近現代史についての基礎理解を確認し、学生が授業中に行った発表、グループワークおよび定期試験によって総合的に判断する。受講生によるアウトプットの比重は次の通りである。</p> <p>授業への積極的な参加、発表、グループワーク、ミニレポート 50%</p> <p>期末試験又はレポート 50%</p>		
学生へのメッセージ/Message for students	グループワークは協同作業ではありますが、同時に個別のテーマを追求することになります。積極的な取組みと答えを考える想像力は欠かせません。充実した議論を行うためには予習が不可欠となりますので、登録コマ数の特に多い学生は注意して下さい。		
授業計画詳細			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション		
第2回	図書館での文献調査及び小プレゼンテーション		
第3回	先史時代および古琉球の世界		
第4回	近世から明治時代までの沖縄		
第5回	大正・昭和期の沖縄		
第6回	グループワーク 沖縄戦の記憶		
第7回	沖縄戦		
第8回	戦後初期の沖縄		
第9回	講和前後の沖縄		
第10回	土地問題と「正常化」		

第11回	復帰運動の時代
第12回	「一体化」と沖縄返還
第13回	グループワーク 今日の沖縄
第14回	返還以後の沖縄
第15回	グローバル化時代の地域アイデンティティ
第16回	期末試験又はレポート

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586022901	科目番号 / Subject code	05860229
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本を知り、世界を知る (人々の暮らしから見る現代日本)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	野上 建紀		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	野上 建紀		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	野上 建紀		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育G棟38		
対象学生 (クラス等) / Object Student	教育・経済・薬・水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nogami.takenori@gmail.com		
担当教員TEL/Tel	095-819-2919		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールによるアポイントメント (nogami.takenori@gmail.com)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>私たちは「モノ」に囲まれて生活している。そして、「モノ」には個人や家族、社会が反映されている。そのため、「モノ」を観察すれば、その社会背景を知ることができる。授業では、生活に使われた「モノ」の一つである陶磁器の変遷を通して、陶磁器に投影された人々の暮らし(生活、産業)の変化を見ていく。そして、過去がどのように現在につながっているか考える。授業は主に考古学の研究成果をもとに行うが、近世・近現代という比較的新しい時代を対象とする。そのため、考古学以外の歴史学(文献史学)、民俗学、民具学の成果を引用しながら、総合的に「モノ」を見ていくことを心掛ける。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>長崎県の地場産業の一つである窯業(陶磁器産業)の歴史と現在について説明できるようになる。身近な生活用品の変化から生活様式の変化を説明できるようになる。江戸時代の磁器と現代の磁器の技術の違いを説明できるようになる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>プリントや画像、映像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な遺跡やその資料を提示しながら、講義を行う。講義の中で適宜、図や写真を観察しながら情報を引き出す作業を行う。10回程度、知の整理をするためのレポートを課す。予習・復習のために長崎市内の関連遺跡や博物館施設の見学レポート提出を課すことがある。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>近世・近現代考古学の調査研究成果から、「モノ」を通して過去と現代社会との関わりについて考える。特に長崎の伝統地場産業の一つである窯業(陶磁器産業)について、その成立から変遷をたどり、現代の地場産業にどのようにつながっているか、見ていく。</p> <p>そのため、以下のとおり、授業を構成する。第1回と第2回は、講義目的、内容などのガイダンスとともに、近世・近現代考古学の目的・方法などを紹介する。続いて第3回と第4回は暮らしと「モノ」の関わりを紹介する。第5～13回は長崎の伝統地場産業の一つである窯業の変遷を通して、その社会背景を見ていくとともに、近世窯業と現代地場産業の関わりを考える。第14回と第15回は近世と近現代の関わりを「モノ」を通して考える。最後に内容の理解度の確認と今後の講義内容や方法の検討材料のために試験を実施する。</p>		
キーワード/Key word	遺物 近世考古学 近現代考古学 陶磁器 伝統産業 窯業		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	適宜、プリントを配布し、教科書は使用しない。参考書は授業の進捗に応じて紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	レポート・課題9点×10回×7/9=70点(90点満点を70点に換算)、最終試験30点の計100点		
受講要件(履修条件)/Requirements	授業内容に関連する書籍・論文の読書、長崎市内の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。		
学生へのメッセージ/Message for students	質問や相談は気軽に。		
授業計画詳細			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	近世・近現代考古学入門(講義全体の内容や取り組み方などを説明する。)		
第2回	近世・近現代考古学入門(長崎と近世・近現代考古学)		
第3回	暮らしと「モノ」(1)(近世・近現代考古学から暮らしの中にあふれる「モノ」の意味を考える。)		
第4回	暮らしと「モノ」(2)(陶磁器と生活)		
第5回	近世の産業と社会(1)(肥前の窯業の成立)		
第6回	近世の産業と社会(2)(地域的な窯業圏の成立、すなわち、地場産業の成立を見る。)		

第7回	近世の産業と社会（3）（地域的窯業圏の地域差－有田と波佐見）
第8回	近世の産業と社会（4）（技術革新と生産体制の確立）
第9回	近世の産業と社会（5）（肥前磁器の海外輸出1）
第10回	近世の産業と社会（6）（肥前磁器の海外輸出2）
第11回	近世の産業と社会（7）（磁器の量産化と社会普及の背景をみる。）
第12回	近世の産業と社会（8）（生産機構の変容）
第13回	近世の産業と社会（9）（産業の近代化と現代地場産業の関わりを考える。）
第14回	「モノ」が語る戦争（戦争の遺産について考える。）
第15回	「モノ」から見る現代社会（近世・近現代考古学が果たす役割をみる。）
第16回	試験（講義の総括と確認のための試験を実施）